

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 6 月 24 日（木）18：30～20：24

場 所：農村環境改善センター

出席者：9 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

- (1) 栗山赤十字病院の改築（別紙 1 参照）
- (2) 栗山駅南交流拠点施設整備事業（別紙 2 参照）
- (3) 令和 3 年度の主要施策（別紙 3 参照）

4. 自由懇談

5. その他

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築】

町民：栗山赤十字病院の改築後、駐車場には車を何台停められるか。また、岩見沢市立病院と北海道中央労災病院が統合するという話を新聞で見たが、その結果大規模な総合病院が完成しても、栗山赤十字病院の改築は計画通り進めるのか。

栗山赤十字病院改築準備室長：現在の駐車場には車を約 30 台停められる。栗山赤十字病院の建物を改築した後、駐車場も含めて整備していく。駐車場の広さは2倍から2.5倍ほどになるので、約 70 台弱の駐車スペースは確保できると思う。設計はこれからなので若干の増減はあるが、駐車場のスペースは極力確保していきたい。岩見沢市立病院と北海道中央労災病院の統合は令和2年から協議されてきた。どちらの病院も建物の老朽化が進んでおり、岩見沢市立病院は2年前から改築が協議されていて、令和3年春に基本構想を立てていた。ただし、建物の場所や工事概要は示されておらず、令和4年度以降に工事が始まると思われる。栗山赤十字病院は、国の地域医療構想制度をもとに協議を進めており、空知管内の拠点病院として計画している。岩見沢市立病院の改築によって医療従事者の確保が課題となっている。岩見沢市立病院は約 400 床、北海道中央労災病院は約 200 床の病院規模だが、統合により約 600 床未満の規模となることが予想されている。栗山赤十字病院は空知の拠点病院になるので、病床の確保のほか、主に急性期の患者を診療していく。岩見沢の病院が整備されても、栗山赤十字病院の改築に大きな影響はないが、改築をどのように進めるかは周知していく必要があるので、それを踏まえて計画を進めていく。

【栗山駅南交流拠点施設整備事業】

町民：栗山駅南交流拠点施設の整備に伴い、商店・飲食店の経営者に対する補償はあるのか。また、商店街や飲食店の経営者と話し合いをしているのか。栗山には多くの飲食店があるので心配だ。

ブランド推進課栗山駅南交流拠点施設開設担当主幹：駅周辺が整備の対象になっている。地域住民が主体となった、新町通り将来ビジョン実現化検討委員会という町民組織があり、数年前から整備の話は進めてきた。地域住民にもアンケート調査を行ったが、施設としての飲食店を作る要望はほとんどなかった。検討委員会の中でどのような施設を設置するかについて話は進めてきたが、どのような活動を行い、どのような機能を有するかについては話が進まなかった。関係人口の増加に主眼を置くと、一度施設に足を運んでもらうためには、食べ物を食べる、ものを買う、何かを体験することなどが必要。テナントとしての飲食店を入れるのではなく、現在駅前通りで実施しているまちなかレストランを移転するもの。自分の出したいメニューを提供できるまちなかレストランの日替わりシェフは、一般的な飲食店とは性質が違うものになる。そのほか、まちなかレストランだけではなく、食を使ったイベントの開催や、料理教室を実施したいと思う。町内の飲食店経営者と特に話していないが、どのような取り組みを行うかについては商店街とも話しているので、弊害は起きないと考えている。今後のまちづくり懇談会などでも町民から意見をいただくほか、商店街との連携については関係者と話を進めていきたい。

町長：まちなかレストランは、これから飲食店を出したいという人が出店しており、先日、そのうちの1組が商店街の空き店舗を使って自分の店をオープンした。こうした事業展開によって、商店街にいろいろな波及効果をもたらすことができる。栗山駅南交流拠点施設を中心に、飲食

店も含め商店街を盛り上げていくことをイメージしている。商店街には多くの店舗があるので、まちなかレストランで頑張った人たちが空き店舗に出店するというつながりができるかもしれない。何もしなければ、駅前通り商店街の店舗は半分以上が空き店舗になってしまうと思う。

町民：これからいろいろな方と相談をして、できるだけ良い方向に向かってほしい。施設ができたせいで、商店街が悪くなったと町民から言われぬように、職員皆さんの力で希望のある商店街にしていきたい。

【令和3年度の主要施策】

町民：新型コロナウイルス感染症ワクチン優先接種の実施について、対象者の中に町職員や新型コロナウイルス感染症対策のスタッフは含まれているのか。

新型コロナウイルス対策室長：町職員や接種会場のスタッフは、優先接種の対象には含まれていないが、65歳以上のスタッフであれば優先接種の対象になっている。ワクチン接種の予約はキャンセルされることがあり、ワクチンが余った場合は、医療従事者の方に接種してもらっている。

町民：町職員やワクチン接種会場のスタッフは、感染するリスクも感染させるリスクも高い。こうした職員は感染することに緊張しながら作業していると思うので、福祉関係の事業者や消防職員に次いで優先すべきだ。町長はどのように考えているか。

町長：ワクチン接種のキャンセルが出た時は町職員に接種している。12歳から65歳までの方のワクチン接種も行っていくが、町が確保した接種枠に満たないので、接種を希望する町職員を募り、なるべく早く進めていきたい。早ければ7月上旬から、12歳から65歳までの方の接種を始められるが、強制はできない。町職員の感染リスクは高いと思うので、優先接種の対象外でも、積極的に接種の体制を整えていきたい。

町民：町職員の体を守ってくれなければ町民が安心できないので、早めにワクチンを接種していただきたい。

町民：ワクチンの接種は若い人ほど接種率が下がると思う。そういった方々に特段の対応は考えているか。ワクチン接種後に熱が出たという話も聞くが、町は把握しているか。また、町はヤングケアラーについてどのように考えているか。

新型コロナウイルス対策室長：若年層の接種率が下がることは予想している。ワクチンの有効性を広報くりやまやホームページで周知しているが、テレビの方が強い影響力を持つ。今後も若年層に対し、ワクチン接種のメリットの部分を積極的に発信していく。副反応は、町職員や保健師から聞いた範囲しか分からないが、接種から2日ほど経過すると熱が出ることもある。ただし、心配されているような強い副反応は、町で行った接種では出ていない。

福祉総括：町内のケアラーについて、昨年アンケートを実施した。町民の18%に当たる人がケアラーで、そのうち5%が18歳未満で家族の介護をしている、ヤングケアラーに該当する。国が令和3年4月に実施した調査によると、全国的にはケアラーのうち約5%がヤングケアラーだと言われており、買い物、話し相手、家事の手伝い、庭の草むしりなどを手伝っている。今後、教育委員会と連携しながら、町内のヤングケアラーを調査し実態を把握していきたい。ヤングケアラーの状況を把握したうえで、どのようなことに困っているのか、対策を検討していく。

【自由懇談】

町民：広報くりやま4月号に今年度の町政執行方針の記事が掲載されているが、商工業の分野で、

産業連関表の活用について検討しますという言葉が、令和元年から3年間にわたって掲載されている。産業連関表とはどのようなものか。また、産業連関表の活用によって、どのような経済効果があるのか。具体的なテーマを検討しているのか。

町長：まだ検討段階だが、町に企業誘致をする、商店街に商店を誘致するといった活動をしていくうえで、どのような取り組みをすれば効果があるか、産業連関表をさまざまに組み合わせることで分析できる。実際に産業連関表の活用に取り組んでいる先進地から学び、産業連関表を作って、栗山に効果的な誘致をするための研究を行っていく。商品の分析も産業連関表を使っているようになる。例えば、町の企業に製品などを納める事業所があれば、その事業所との連動ができるようになる。

町民：2年間も産業連関表の検討を行っている。具体的なテーマを決めて検討しているのか。

町長：具体的なテーマまでは決めていない。あらためて説明させていただきたい。

【その他】

町民：コロナ禍によって中止になった行事もあるが、町内小中学校の修学旅行や運動会などの予定はどうなっているのか。また、自宅近くの公営住宅が空き住宅になっていて、雑草が大量に生い茂っている。去年は町内会長にお願いして刈ってもらったが、現在では、自宅との境目にある生垣の近くまで生えてきており、自宅に来ている庭師に刈ってもらった。新型コロナウイルス感染症患者の入る住宅は利用されていないが、周囲にふきなどが生い茂っているので、定期的に見回すなどの対処をしてほしい。

教育長：小学校の運動会は6月5日に予定していたが実施できなかった。6月26日に角田小学校と継立小学校で運動会を実施できるように進めている。栗山小学校の運動会も実施予定だったが、6月21日から22日にかけて修学旅行を実施したため、準備ができなかったのも、夏休み初日の7月22日に予定している。修学旅行は栗山小学校が6月21日と22日、角田小学校は7月2日と3日に予定している。見学先はウポポイ、貝塚遺跡、ルスツなどのコースを予定しており、特に大きな変更が無ければこのまま実施していきたい。継立小学校の修学旅行は隔年で実施しており、今年度は実施しない。栗山中学校の修学旅行は6月の緊急事態宣言前に実施している。教育委員会としてしっかりと衛生管理を進めながら、子どもたちの一つの大きな発表の場となるように、さまざまな工夫をしていく。

建設総括：公営住宅の空き住宅や、その他の町が管理している住宅について、雑草の状況を確認して対応したい。